

## β HCG について

β HCG は脳腫瘍や精巣腫瘍・絨毛癌などでも一部の希な腫瘍の血清検査で上昇し、これらのがんの腫瘍マーカーとして用いられていますが、妊娠女性でも高くなります。東病院では平成 17 年に、検査上特異性の低い HCG ではなく、β HCG という検査法を追加しております。

β HCG のメーカーから出されている添付文書によると、β HCG の基準値は非妊婦女性で 3mIU/ml 以下・男性で 2mIU/ml 以下と記載されております。妊娠女性では妊娠 4 週で 1, 100、妊娠 9 週では 91, 500mIU/ml まで上昇します。脳腫瘍や精巣腫瘍・絨毛癌などでは、数十万まで上昇することもあります。これらのがんの専門医のほとんどは 0. 5mIU/ml 以下では腫瘍がない（緩解している）状態と考えています。これらの腫瘍における β HCG の値は診療上は、絶対値よりも時系列の変化をみるのが大切です。変動が見られた場合に画像検査などを追加することになります。キット等により基準値もことなり、極めて専門家の医師の間だけにしか議論されない問題ですので、精巣腫瘍取り扱い規約においても基準値は記載されず、変化をみることの重要性が記されています。

胃がんや大腸がんなどで用いられる CEA などのよく知られた腫瘍マーカーと異なり、β HCG は一般に用いられる腫瘍マーカーではありません。脳腫瘍・精巣腫瘍・絨毛癌などを疑わずに β HCG の検査を行うことはありませんが、治験などでは妊娠の有無についてこの検査を他の検査と一緒にすることがあります。東病院での検査上は当初は基準値を 0. 5mIU と掲示しましたが、これは脳腫瘍や精巣腫瘍・絨毛癌などの専門医が議論している数字でしたので、添付文書にあるような、がんの無い人の基準値に改訂しております。

このように β HCG は、正常な人のがんのスクリーニングのための腫瘍マーカーではなく、正常よりも低い値で基準値の値を電子カルテ上変更したことによって、これまでのところ患者さんに不利益が生じたことは見られませんが、引き続き調査を進めてまいります。